

ARTにおける新しい選択肢 多血小板血漿(PRP)療法

多血小板血漿(PRP) を用いた治療について

患者さん本人の血液を用いて、多血小板血漿(Platelet-Rich Plasma: PRP)を組成し、標的的部位へ注入する「再生医療」になります。血小板は組織の修復、損傷部位の血管新生、創傷の治療に必要な「成長因子」を多数放出することが知られています。

PRP療法は、このような血小板から放出される成長因子を専用の医療機器を使用して効率的に濃縮・組成し、治療したい臓器へ注入することによって、本来、自分の体が持っている細胞の再生能力を局所的に最大化する治療法です。

PRP療法は既に様々な疾患領域にて臨床使用されており、整形外科、歯科、眼科、皮膚科、婦人科等において、有効性が明らかにされつつあります。

注意事項

- * 治療前、水分を多めに取り、2-3日前から油分の少ないバランスのよい食事を心がけてください。
- * 治療後は、しばらく安静にしてください。具合が悪いときはスタッフにお伝えください。
- * 治療後24時間以内は、激しい運動は控えてください。
- * 万一、発熱をはじめとする、ふだんと違った症状がみられた時は、直ちに主治医に相談してください。

下記に該当する方は、 まず主治医にご相談ください

- * ヘモグロビン値(Hb)が11 g/dL以下の患者
- * フィブリン値(Fbn)が200 mg/dL以下の患者
- * 血小板数(Plt)が150,000/mm³以下の患者
- * 血小板機能異常症の患者
- * 血行動態が不安定な患者
- * 本治療前10日間以内に非ステロイド性消炎鎮痛薬(NSAIDs)を服用している患者
- * B型およびC型肝炎の患者
- * 抗凝固薬で治療中の患者
- * 子宮筋腫の切除歴がある患者
- * 悪性腫瘍、またはその可能性にて治療中の患者

医療機関名

主治医名

●	●	●	●
●	●	●	●

自己多血小板血漿 (PRP)による 再生医療を受ける方へ

生殖補助医療における卵巣機能回復編



不妊症分野におけるPRP治療:排卵誘発

女性不妊症領域における PRP 治療の歴史はまだ十分ではありませんが、現在では国内外でも研究が盛んに行われています。

子宮内投与による胚着床率の向上は検証されており、2019 年から日本国内でも広まりつつあります。

血小板に含まれる成長因子とサイトカイン (FGF・PDGF・VEGF・IGF・ILs 等) は、卵胞を良好に育てるために不可欠であります。

卵巣機能で困ってる症例を対象に、成長因子とサイトカインを多く含むPRPを卵巣投与によって、FSH、AMH等ホルモン数値の改善が報告され、採卵、及び妊娠につながるケースもあります。

排卵誘発にあたり、クスリ以外の新しい選択として、注目を集めています。

安全性について

本治療法は法律に基づき、再生医療等提供計画の届出後、厚生労働大臣に受理された治療となります。

あなた自身の血液を用いた治療法ですので、アレルギー反応等の心配が少なく、安全性の高い治療法となります。

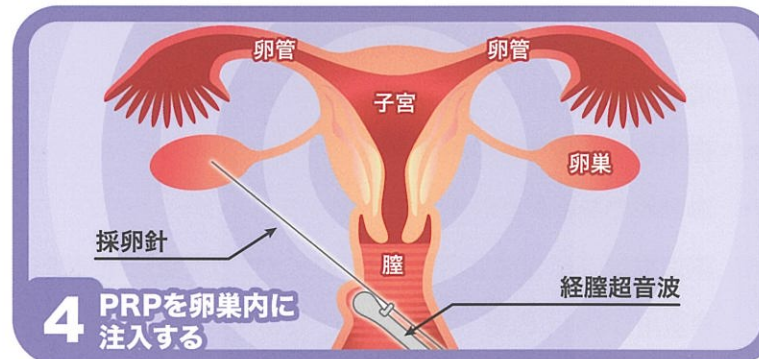
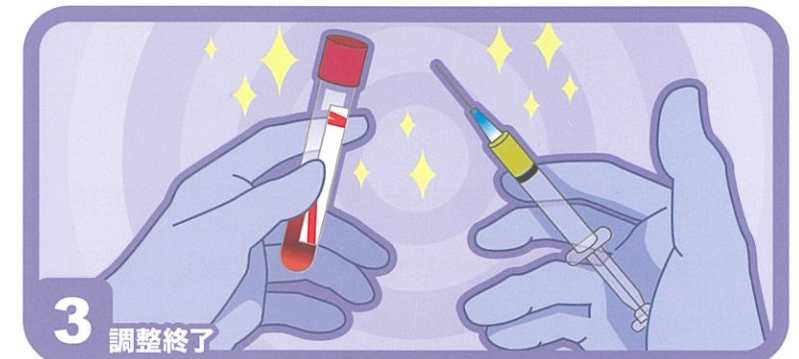
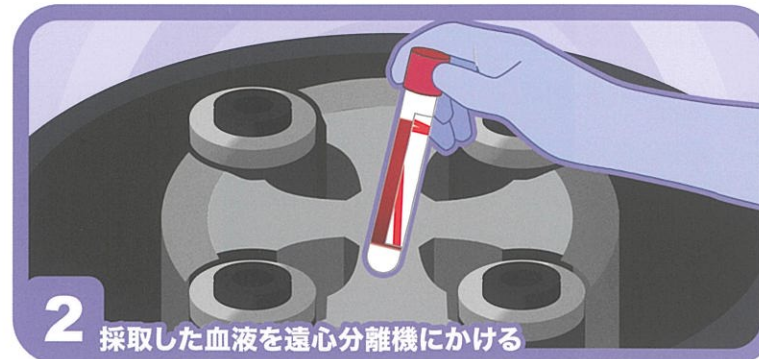
*2021年5月時点

国内外の市販後安全性情報収集にて以下の有害事象が報告されているが、因果関係は否定されている。

腔感染症: 1 症例、不正出血*: 1 症例 (* 海外報告)

治療の流れ

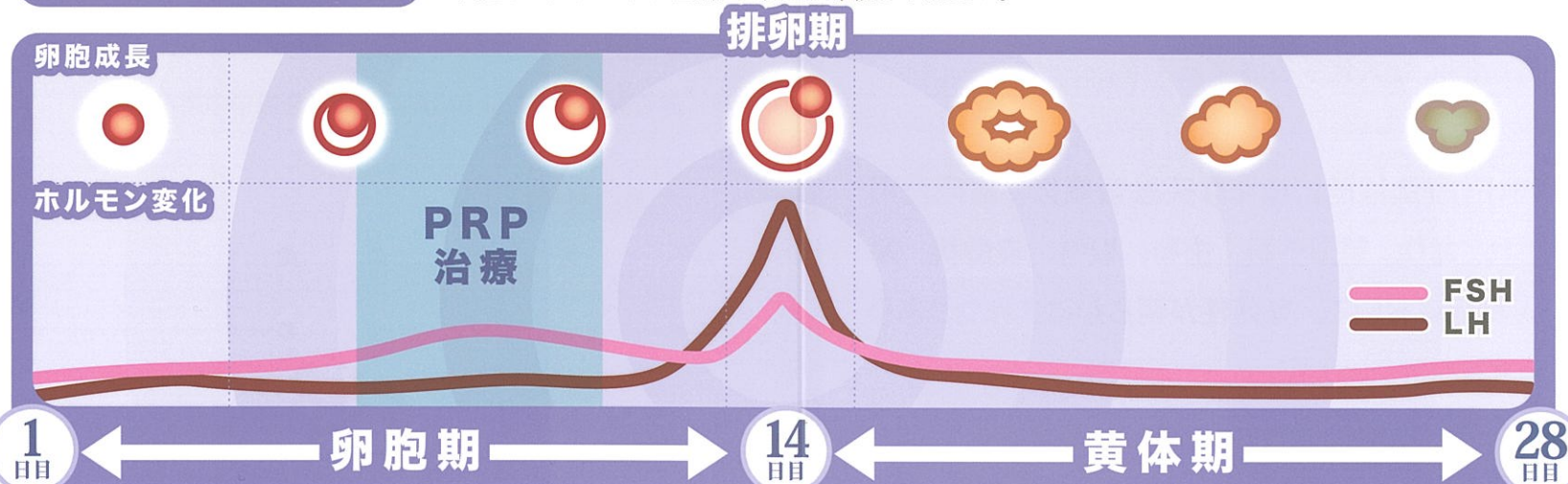
通常、治療後の安静も含めて約1時間かかります



PRP治療のスケジュール

*一周期で1~2回のPRP注入を行います。

*実施するタイミングは主治医の先生に確認してください。



ARTにおける新しい選択肢

多血小板血漿(PRP)療法

自己多血小板血漿(PRP)を用いた治療について

患者さん本人の血液を用いて、多血小板血漿(Platelet-Rich Plasma: PRP)を組成し、標的部位へ注入する「再生医療」になります。血小板は組織の修復、損傷部位の血管新生、創傷の治療に必要な「成長因子」を多数放出することが知られています。

PRP療法は、このような血小板から放出される成長因子を専用の医療機器を使用して効率的に濃縮・組成し、治療したい臓器へ注入することによって、本来、自分の体が持っている細胞の再生能力を局所的に最大化する治療法です。

PRP療法は既に様々な疾患領域にて臨床使用されており、整形外科、歯科、眼科、皮膚科、婦人科等において、有効性が明らかにされつつあります。

注意事項

- * 治療前、バランスの良い食事を心がけてください。
- * 治療後は、しばらく安静にしてください。具合が悪いときはスタッフにお伝えください。
- * 治療後24時間以内は、激しい運動は控えてください。
- * 万一、発熱をはじめとする、ふだんと違った症状がみられた時は、直ちに主治医に相談してください。

下記に該当する方は、 まず主治医にご相談ください

- * ヘモグロビン値(Hb)が11 g/dL以下の患者
- * フィブリン値(Fbn)が200 mg/dL以下の患者
- * 血小板数(Plt)が150,000/mm³以下の患者
- * 血小板機能異常症の患者
- * 血行動態が不安定な患者
- * 本治療前10日間以内に非ステロイド性消炎鎮痛薬(NSAIDs)を服用している患者
- * B型およびC型肝炎の患者
- * 抗凝固薬で治療中の患者
- * 子宮筋腫の切除歴がある患者
- * 悪性腫瘍、またはその可能性にて治療中の患者

医療機関名

主治医名

●	●
●	●

AEON INTERNATIONAL

株式会社エイオンインターナショナル

自己多血小板血漿 (PRP)による 再生医療を受ける方へ

生殖補助医療における子宮内膜治療編



不妊症分野におけるPRP治療

血小板に含まれる成長因子（PDGF・TGF- β ・VEGF・EGF等）は、子宮内膜環境の改善を促すことが明らかにされています。

成長因子を多く含むPRP投与によって、子宮内膜における細胞増殖、血管新生を良好にすることで、胚着床率の改善、および妊娠維持が期待できます。

不妊症領域での治療の歴史はまだ十分ではありませんが、現在では海外において子宮内膜菲薄症例や反復着床不全症例に対する研究が盛んに行われています。



安全性について



本治療法は再生医療等の安全性の確保等に関する法律に基づき、再生医療等提供計画の届出後、厚生労働大臣に受理された治療となります。

あなた自身の血液を用いた治療法ですので、アレルギー反応等の心配が少なく、これまでの国内外での使用において、重篤な副作用は報告されていません。

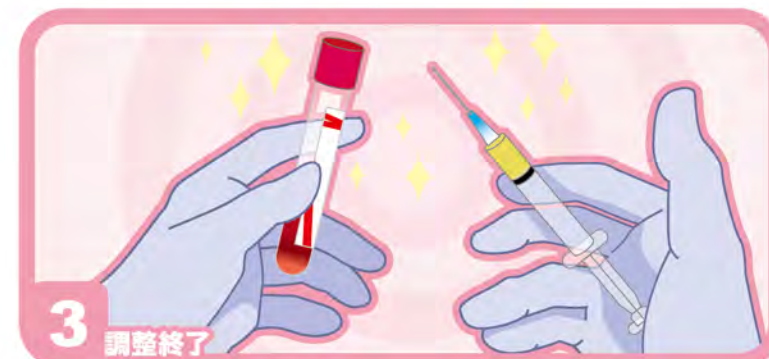
*2019年12月時点

国内外の市販後安全性情報収集にて以下の有害事象が報告されているが、因果関係は否定されている。

膣感染症：1症例、不正出血*：1症例（*海外報告）

治療の流れ

通常、治療後の安静も含めて約1時間かかります



【PRP治療のスケジュール】

一周期で2回のPRP注入を行います。
*実施するタイミングは主治医の先生に確認してください

◆新鮮胚移植・自然周期凍結胚移植では卵胞発育、LH値の観察を行い、採卵後、施設方針に順じて胚移植を行う。
*自然周期・凍結胚移植においては、LH値に応じて胚移植を行う。

◆ホルモン補充周期・凍結胚移植では、子宮内膜が十分な厚さになった時点から、プロゲステロン製剤の投与を開始し、施設方針に順じて胚移植を行う。

